

# 西部の社会科の未来へバトンをつなぐ

授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!!



令和5年12月発行  
西部教育事務所

社会科授業づくり講座  
四万十市立中村西中学校



教材研究会 令和5年10月18日(水)

【単元】地理的分野 B世界の様々な地域 (2)世界の諸地域(アフリカ州)

章を貫く問い

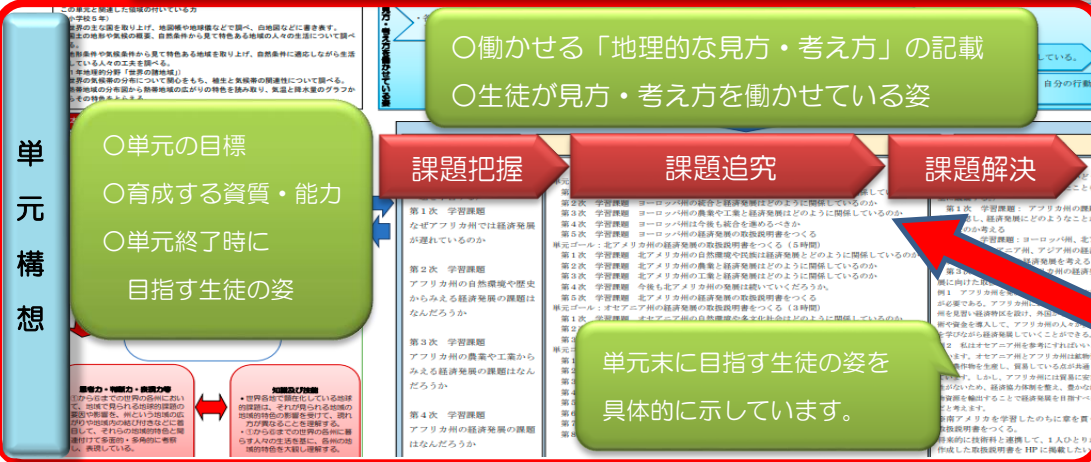
経済発展の取扱説明書をつくる

単元を貫く問い

各州の取扱説明書をつくる→アフリカ州の経済発展に向けた取扱説明書をつくる

中村西中学校の重点的取組

教科の特性を踏まえ、考え深めるための問いや発問の工夫【**批判的思考**を働かせる場面・課題の設定】



## 【単元ゴール】アフリカ州の経済発展の課題に対する解決策を考える

課題把握の場面で気付いたアフリカ州の経済発展に対する課題を解決するために、まず他の州において課題に対する解決策を考える活動を繰り返し行います。そして、各州の地域的特色や解決策を比較したり、既得の知識や技能を活用して、最終的にアフリカ州の課題解決に向けて意思決定する単元構想になっています。

## ポイント① 【社会科の学習過程に沿った学習活動の設定】

社会科の学習過程である「課題把握」「課題追究」「課題解決」の学習活動を小単元で繰り返し行います。学習過程に沿って活動することにより、生徒は見通しを持ちながら、主体的に学習を進めることができます。社会科では多面的・多角的に考察し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、社会科で付けたい資質・能力の育成を図っていくことが大切です。

【協議】見方・考え方を働かせ思考を深める授業にするためには、「〇本時のめあて」はどのようなものにすればいいのか。

- 「アフリカは経済発展できるか」  
→アフリカの経済発展が可能かどうか、根拠を基に説明できるように2択で答えられるものはどうか。
- 「アフリカの経済発展にどの州の取説が参考になるだろうか」  
→課題をはっきりさせ、根拠を基に取説が発表できるようにしてはどうか。
- 「どうすればアフリカらしい経済発展ができるだろうか」  
→アフリカの経済発展に活かせるような材料や資源を出し合い、何をどのように使えばアフリカの発展につながるのか、批判的思考を交えて考察するものにしてはどうか。  
・他にも「他地域からの学びを活かせるものにしてはどうか」、「デメリットをどのように改善していくとよいか」等の意見が出されました。

## 井上 昌善 先生（愛媛大学准教授）の講話より



- 【令和時代に求められる社会科授業づくりについて】
- 生徒は持続可能な社会の創り手であり課題解決の担い手である。公民として求められる資質・能力の育成に向け、「読解力」、「表現力」、「納得解を生み出す力」が重要になる。そのためにも、資料の読解を丁寧に行うことや、他者との対話、議論を通して納得解を生み出す合意形成能力の育成が求められる。
  - 中学校1年生では、社会的な見方・考え方の視点を与えることも重要であり、社会的な事象に対していつでも必要な見方・考え方を働かせることができるようになることが大切である。
  - 現在求められているのは、「なぜ」、「どうすれば」を説明、表現する力を身に付けることである。
    - ① 「変化に対応する力」：社会の変化について多面的・多角的に考察する。
    - ② 「変化を起こす力」：社会の改善、変革を目指した構想・提案を重視する。

## ポイント② 【動かせる見方・考え方、批判的思考をふまえて】

生徒に問いを持たせ、社会的な見方・考え方や批判的思考を働かせて主体的に社会的な事象を追究し、自分の意見を再考していけるめあてはどのようなものかを考えます。

## 【授業づくりに向けて教師として重要なポイント】

1. ニュースなどのタイムリーな話題を収集すること
2. 先行実践を調べ、参考にすること
3. 他社の教科書や新書、参考書も参考にすること
4. 授業を通して育成したい子ども像を考えること

# 授業研究会 令和5年11月22日(水)

## 章を貫く問い

経済発展の取扱説明書をつくる

## 単元を貫く問い

各州の地域的特色を生かして、アフリカの経済がこれから発展するにはどうすればよいか

## 本時のめあて

果たして、アフリカ州は経済発展することができるか

批判的思考を  
働かせて

【単元】

地理的分野

B 世界の様々な地域

(2) 世界の諸地域  
(アフリカ州)



【授業者】 萩原 直幸 教諭

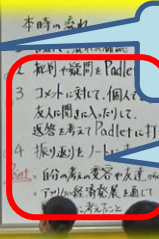
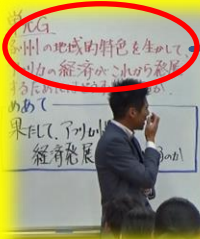
## 教材研究会を受けての改善

- 単元を貫く問いをより具体的なものに変更
- 本時のめあての変更(2択で答えられ、根拠を基に意見を交流できるもの)

## 本時の展開

- 自分の意見や友達の意見を批判的にとらえ、議論の中で自己の考えを深め再考していきます。
- ※次時が本単元のまとめの時間となりアフリカ州の取扱説明書を作成します

## ポイント① 【毎時の単元を貫く問いの提示 本時のポイントの明示化】



常に単元ゴールを提示することで、生徒は課題に立ち返りながら課題解決に向かうことができます。

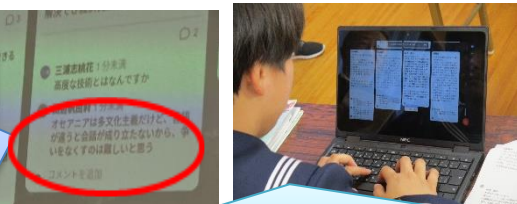
授業の流れの説明の中で、ポイントとなる部分を明示し可視化しています。生徒はやるべきことを理解し、自信を持って課題解決に向けて取り組むことができます。

この部分を、もう少し詳しく教えて...

なぜ、そう思うの？  
根拠は？



(友達からのコメント)  
「アジアとアフリカでは言語や宗教も違うから、技術を伝えるのは難しいのではないですか？」



友達からのコメントに対し、根拠となる事柄を教科書、ノート、インターネットの資料等、様々な手段を用いて生徒が調べ直し、自分の言葉でまとめて返しています。

## ポイント② 【ICTの効果的な活用(Padletの活用)】

Padlet上で学級全体の友達の考えを共有することができます。生徒は批判的な意見や疑問を友達に投げかけ Padlet上で議論していきます。必要に応じて友達に直接意見や説明を求めるなど、それぞれが最適な方法で課題解決に向けて取り組むことのできる環境が仕組みられています。

## ポイント③ 【振り返りの充実】

振り返りの時間をしっかりと確保することで、生徒は本時の学びを整理し深い理解につなげたり、次時に向けての見通しや新たな疑問を見いだしたりすることができます。どのような内容について書かせるのか、教師側からの投げかけが重要になります。



## 参加者の声

- 考察と構想の問いの組み立て方の違いや、分野ごとの特質などが理解できた。生徒にどのような力を付けたいかを明確に持って授業を行っていきたい。
- 生徒のより深い理解や、付けたい力を育成するための工夫を感じた。
- 単元構想で「何を」「どのように」考えさせるかを教師側がしっかりと持ち、その手段としてICTを活用していききたい。
- ペアやグループ活動の中で、意図的に批判的思考を働かせる場面を設定していききたい。
- 生徒の表現活動を活性化するために、ICTの活用を取り入れていききたい。職場のICTに詳しい教員との連携を図り、組織的に行っていききたい。